

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491000384	事業の開始年月日	平成24年4月1日	
		指定年月日	平成24年4月1日	
法人名	株式会社コムロード			
事業所名	もえぎケアセンター下倉田			
所在地	(〒244-0815) 神奈川県横浜市戸塚区下倉田町794-1			
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	25名	
		通い定員	15名	
		宿泊定員	5名	
		定員計	名	
		ユニット数	ユニット	
自己評価作成日	平成26年11月25日	評価結果 市町村受理日	平成27年4月20日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の個々に合ったサービス（通い・宿泊・訪問）を柔軟に組み合わせて提供しています。小高い丘にあり、落ち着いた環境の中、日当たりの良いデイルームでゆったりと過ごすことができます。また、季節の行事を取り入れた作品作りやお出掛け企画は皆さんに好評です。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成26年12月18日	評価機関 評価決定日	平成27年2月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】 ◇利用者の自立度を高めるサービスの実施 ・利用者に無理強いしない範囲で、自分のことは自分でしてもらっている。靴を下駄箱に入れる、着替え、トイレ、食後の下げ膳等可能な限り自分で行うことにしている。退院後、車椅子利用の利用者が自力で歩行できるよう改善した例がある。 ◇丁寧なケアプランの作成 ・利用者毎に日々の連絡帳、経過記録を作成しモニタリング、カンファレンスを行っている。家族から見直し時期に要望書をもらいケアプランに反映している。</p> <p>【事業所が工夫している点】 ◇地域との密着 ・事業所の「秋祭り」は地域密着型として、近隣住民を招待している。事業所は近所へポスターのポスティングで告知をして、ゲーム、バザー、食べ物の出店を用意して、近隣の人が利用者やその家族とともに集まって楽しめるようにしている。 ・クリスマス時期には事業所をイルミネーションで飾り、近隣から大勢見学に来ている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	もえぎケアセンター下倉田
ユニット名	ー

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事業所内に提示し常に目に触れるようにしている。また、社長研修やミーティング等でスタッフに周知している。	<ul style="list-style-type: none"> ・理念は「利用者と一体感を持ったサービスを」として、職員は利用者本位のきめ細かいサービスの実践に努めている。 ・理念を事務所内に掲示し、更に賞与支給時には社長から理念について書いたメッセージを職員に届け周知している。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域密着型行事「秋祭り」を毎年開催し地域の方との交流を深め、豊田小学校からは小学生が来訪し利用者として交流している。 地域の防災訓練に参加している。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の秋祭りを近隣にポスティングして告知し、ゲーム、バザー、焼きソバ等の出店で近隣の人々と楽しんでいる。 ・小学生が来所し、花笠踊りや利用者へのメダルプレゼントなど自分たちの企画を披露している。 	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域密着型の催しや運営推進会議に地域の方に参加していただき、理解や支援に貢献している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用状況、ヒヤリハット、行事報告などを行ないご利用者様の家族を含む様々な出席者からご意見、ご要望をいただきサービスの向上に役立てている。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議は2か月毎に開催している。 ・小規模多機能施設には様々なサービスがあることを伝え、通いの利用者に泊りの体験をしてもらい、家族の理解を得ている。 	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所や地域包括とは相互に連絡を取り、アドバイスをいただいたり情報交換を行ったりしている。また、地域ケア会議出席し事例検討を行なっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・戸塚区保護課とは利用者について密接な連絡を取っている。地域包括センターから独居者の紹介をもらいサービスにつながった事例がある。 ・横浜市が主催する区役所、民生委員、自治会メンバーが参加する地域ケア会議で事例発表を行った。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言を事業所内に掲示し全職員が常に意識している。また、研修に参加しその情報を共有している。	・スタッフミーティングで、日常のケアの中で何気ない行動が拘束に当たることがあることを示し、職員間で互いに注意し合っている。 ・玄関の施錠方法については、利用者の安全第一を優先して運用していることを家族に説明し同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常の言葉かけや行動などに注意し、全職員が防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方がおり、制度を学ぶことが出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に質問や疑問を伺い、十分話し合い、納得していただけるよう説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見、要望は運営推進会議や連絡ノート、要望書等で伺っている。また電話やメール、送迎時の会話等の中でも気軽に話していただけるような雰囲気を職員が心掛けている。	・利用者毎に連絡ノートを作成しバイタル、食欲、排泄等を記録し、家族に利用者の事業所での様子を知らせている。 ・家族からの意見で「ふるさとを語ろう」を企画し、利用者を6～7名のグループに分け、話し合いをした。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われているミーティングや毎日の申し送り等を通し職員の意見、提案、要望などは管理者が把握し、改善すべきところは改善し、社長にも報告している。	・スタッフミーティングを月1回開催し職員の意見を聞いている。職員の提案で、浴場での男女入れ替え時のプライバシー保護のため、脱衣所にカーテンを付けた。 ・年間行事担当者を決め、職員が外出行事を企画できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の努力、実績が昇給や賞与に反映されている。社長研修では職員が直接意見を言える場が設けられ、やりがいを持って業務ができるよう配慮されている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に「社長研修・懇談会」を開催している。」また研修の案内を回覧し、希望する研修をうけることが出来る。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	小規模多機能事業所連絡会や合同研修に管理者や職員が参加している。また同業者間での交換研修も行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者本人やその家族と面会し、困っている事、要望、思いなどを伺うなかで安心していただけるような関係づくりを行なっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階でご家族の意見や要望、困っている事、ご本人の状況等を聞き、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者本人とご家族双方の意見や要望、現在の状況を聞いた上で、他のサービスの利用も視野にいたした対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分でできることは出来る限り自分で行なえるような支援、見守りをし又お手伝いをさせていただくなどして、共に過ごし支え合う関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡ノートにて通所時の様子や家での様子をお互いに知らせ、必要に応じ電話連絡や面会を行ない直接話し合いをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人との外出などはご本人の意志を尊重している。又、馴染みの場所へ出かけるための支援を行なっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が行きたいマーケットには、職員が同行している。洗髪のため毎週美容院に通っている利用者がいる。 ・事業所が利用者の第二の家として、利用者の馴染みの場所となるよう努めている。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事を通じて利用者の皆様が参加し、関わり合い支え合えるように工夫し支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用廃止後も必要に応じて相談や支援を行なっている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の連絡帳でのやり取りや、半年ごとに書いて頂く要望書により希望、意向の把握につとめている。困難な場合はご家族からの情報などをとに本人本位に検討している。	・アセスメントはサービス開始時から定期的に見直しをして、利用者の生活パターンを把握している。 ・食事や入浴時の雑談の中から利用者の思いを汲み取っている。表現困難者については、家族から聞き取りをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人からの聞き取りやこれまでのケアマネージャーからの情報提供などにより把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌の他に、一人ひとりの経過観察記録や業務開始前のミーティング、毎月のケアカンファレンスなどを通して現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスで、個別担当者が利用者の経過を報告し、職員全員で課題に対し話しあい、ご家族、本人からの要望も配慮して計画を作成している。	・ケアプランの有効期限は6か月である。利用者毎に経過記録を作成しモニタリングをし、毎月のミーティングでケアカンファレンスを行っている。見直し時期には家族から要望書の提出を得て、ケアプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し変化や気づきがあった場合は業務開始前のミーティングで報告、確認し合っている。又、経過観察記録に記録し毎月のミーティングで話し合い見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族は連絡帳や電話で都度状況を知らせて下さり、その時々のご家族の事情、利用者の様子や体調に合わせて柔軟なサービスを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々が植えて下さる季節ごとの花を観賞したり、野菜の収穫を利用者様と行っている。独居の方は必要に応じ居住の自治会等と連絡をとり支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医への受診はご家族にお願いし、独居の方は通院支援をしている。適切な医療が受けられるよう、医師との連絡調整を行い、場合によりご家族とともに受診同行している。	・かかりつけ医との連携を図り、利用者に関する情報入手のため、利用者の通院時には職員が同行し、診断結果を把握するよう努めている。 ・独居の利用者のうち、数名は事業所の協力医と契約している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の変化、情報は看護職員に報告相談し手当や受診の支援をしている。訪問看護利用の方は気づきや変化を電話連絡し敏速に伝えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は主治医、ソーシャルワーカーと密に連絡を取り、早期退院に向け行動している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に説明とともに緊急時の対応同意書をいただき延命希望も聞いている。重度化したときは家族と話し合い、医療、訪問看護と連携をとりながら本人、家族の意向に沿った支援を行なった。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所に宿泊をし、訪問医師、訪問看護師のケアが得られて、医療行為が発生しない場合は事業所での看取りは可能と考え実行している。 ・職員への研修は、実例をみながら食べ方、口腔ケア、安楽な姿勢の取り方等をOJTで行っている。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得た救命救急の訓練を行い、人工呼吸やAEDの使用方法を全職員が学習している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練、消化器を使った消火訓練を行っている。特に夜間想定訓練を行い安全に避難できるよう取り組んでいる。戸塚区福祉施設防災指導会に職員が参加し指導を受けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の避難訓練には、年1回は消防署の立会いがある。夜間想定訓練では近隣に住むスタッフが来所できる時間の測定を行った。 ・下倉田町内会の防災訓練に職員が参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・備蓄品はリストアップのみで、非常用の水、食料品、備品等が整っていませんので整備が望まれます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いには十分に注意を払い、お一人おひとりの尊厳を損なわない声掛けや対応をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の利用者への声掛けは、利用者のプライドを尊重し、時に冗談を交え、優しくゆっくりとした口調である。 ・プライバシー保護についての研修は職員全員が受講し大切な事項として周知している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が自分の思いや希望を表現できるよう常に寄り添った対応を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の希望にそったレクリエーションを行ったり、一人ひとりのペースを大切に、自由に過ごして頂けるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の他、整髪、髭剃り、爪切り等を行い清潔と身だしなみを整えている。衣類等はご本人の希望を聞きながら支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の好き嫌いを配慮し、旬の食材をメニューにとりいれている。利用者と職員が同じテーブルで一緒に食事を楽しみ、簡単な調理の手伝いやテーブル拭き、食器の後片付なども出来る範囲で行なっていたらいい。	<ul style="list-style-type: none"> ・むせ込み防止のため、食事の前は口腔体操をし、利用者の合図で食事が始まり、食後は一人ひとり食器を厨房まで運び下膳している。 ・お好み焼や餃子パーティ、誕生会や敬老の日の祝膳など行事ごとに特別食を用意して飽きない工夫をしている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた量や水分摂取に注意し、バランスの良い献立を考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行い、一人で行える方には見守りをし、出来ない方には介助をし、口の中が清潔であるようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を利用し、一人ひとりに合わせて声掛け誘導を行ない、排泄や排泄の自立を支援している。	・利用者は介護度が低く殆ど自立しているが、タイミングいい職員の声掛けで利用者の安心を得ている。 ・排泄チェック表により職員は個々のリズムを把握し、適切な声掛けで、尿意がなかった利用者がトイレ使用へと改善された事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないよう水分補給、運動や散歩などを工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望、タイミングに合わせてゆっくりと入浴を楽しんでいただけよう工夫している。	・入浴介助は基本的に午前中に実施している。入口に長い暖簾を下げ温泉気分をだしている。個々の希望に沿って、午後一人で気ままな入浴を楽しめるとか、一番風呂を望む複数の利用者は曜日を変えて満足してもらおうなどの配慮をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態と生活習慣を職員が把握し、ソファ、ベッド、畳の部屋等その方に合った場所で休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に処方説明書をファイルし、必要時にすぐ確認できるようになっている。与薬と服薬確認を行い変化の確認を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの方の生活歴や趣味を聞き取り、それを活かした活動やお手伝いをお願いしレクリエーションの内容にも工夫している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事を企画し色々な所へでかけている。また外食へもでかけ楽しんでいただいている。また、天気の良い日は散歩を行なっている。利用者が希望する美容院に職員が送るなど家族や地域の方と連携をとりながら支援している。	・外出行事の季節ごとの目的地として、初詣、花見、芋ほり、森戸海岸、フラワーセンター、舞岡公園などを選んで実施している。 ・日常的にマーケットで買い物、馴染の美容院、敷地内の花壇散歩など利用者の外出希望に応じている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方はご家族や後見人が管理している。その幾らかをご本人が所持し、依頼に応じて買い物に同行したり、職員が代行で購入している方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方は使用方法をお手伝いしている。また、ご希望に応じフロアの子機を使用される方にはかけるお手伝いをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダイルームは陽射しが差し込み明るい。また常に温度、湿度に配慮している。季節に応じた利用者の作品を飾り、イベントを行ない楽しんでいただいている。	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマス時期には館内外を盛り花やイルミネーションで飾り華やかな雰囲気を作っている。 ・利用者全員で分業し作成したロール絵を数種壁に掛けている。 ・床暖房、加湿器、エアコン、窓の開閉で温度、湿度の調整を行っている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの席では気の合った利用者同志で座れるよう配慮し、一人で静かに過ごしたい方は離れた場所で座れるようにしている。ソファでもゆったりと過ごしていただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドの個室、畳の部屋等ご本人と相談し、選んでいただいている。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室は和室、洋室を布団、ベッドと共に準備し利用者が選んでいる。職員による利用者の荷物の管理と毎日の清掃で、すっきりと片付いた状態にあり、いつでも居心地よく過ごせるようになっている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺の設置で安全に自由に移動できている。できる方は靴やコートの片づけ、食事の下膳などを自分でして頂き、見守っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 もえぎケアセンター下倉田

作成日 平成27年4月16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	備蓄品のリストアップは出来ているが、実際に備品が用意されていない	出来るだけ早く備品を用意し、災害時に備える	備品をストックする物置を設置する リストアップした備蓄品を購入する	10ヶ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。